

熊本市立第二高等学校

第4期 SSH研究開発計画

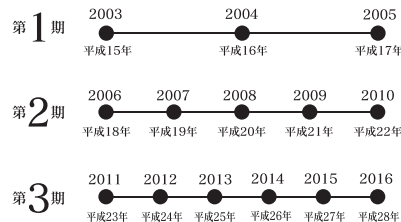
本校はSSH指定を3期(14年)行いました。その成果として...

指導者

- 理数科における科学系人材の指導法が確立出来た。
- 美術科、普通科へ探究活動が普及した。

生徒

- 課題研究の質が高まった。
- 卒業生の大学院進学率が高まった。



そのような中、2016年4月に熊本地震が発生しました。

本校は県内の公立学校で最も大きな被害を受け、学校のみならず生徒(家族)、指導者も大きな被害を受けました。

それでも懸命に、復興に向け主体的に行動する生徒の姿がありました。

3期間(14年)の成果をさらに深化・継続する。



熊本地震の経験を復興の力にしたい。

**第二高校はこれからも、
主体的に行動することのできる生徒像(人材育成)を目指し...**

みつめる力

課題発見力
豊かな感性
柔軟な想像力

きわめる力

計画力
実行力
情報収集力・処理能力

社会との共創

つなげる力

主体性・協調性
知識融合力
社会貢献力

今期から効果測定として全ての教科で
**「二高ICEモデル」による
評価**

I=Ideas【習得】 C=Connections【活用】
E=Extensions【探究】

生徒：自分の成長を客観的に認知することができる
指導者：生徒の成長の段階を客観的に判断することができる

**科学的視点から「熊本の創造的復興」を
リードする人材の育成を研究開発課題とします。**

研究開発1

探究活動を深める
ため

「全校で探究科目」を展開

- 理数科【SS=Super Science】
- 普通科【GR=Global Research】 **新設**
- 美術科【AS=Art Science】 **新設**
- 理数科の学校設定科目を発展・継続
SS、科学情報、科学家庭、科学英語
- 美術科に学校設定科目を新設
美術探究
- 3学科での合同発表等

研究開発2

深い学びを獲得する
ため

「探究型授業」を構築

- モデル授業の開発により
全教科・全領域に探究型授業を推進する
- 「二高ICEモデル」で生徒の質的変容を捉える
- 授業開発部の設置
授業開発部とSSH部が連携して、
 - 全職員が
主体的・探究的に学ぶ手法を共有する
 - 「二高ICEモデル」により
指導と評価を一体化する

研究開発3

探究の質を向上させる
ため

「外部連携」を推進

- 外部(社会)と結びついた探究が、
知識や能力を育むく学びの相乗効果>
- 外部連携先
 - 熊本大学グローバル教育カレッジ
 - 崇城大学 AL 大学教育再生加速プログラム(AP)
 - 県内の高校
 - 卒業生
- 平成28年熊本地震復旧・復興本部
- 自衛隊
- 日本赤十字
- 消防署
- 警察署
- 区役所
- 熊本大学減災型
社会システム実践研究教育センター